

## 欧米の図版資料と「風俗画報」～起源・始まり～

センゲージラーニング株式会社 Gale

センゲージラーニング株式会社 Gale のデータベースは、イラストレイテッド・ロンドン・ニュース( Illustrated London News, 以下 ILN)に代表される欧米の図版資料を多数提供してきました。図版資料は、都市の景観、社会風俗、日用品などを視覚的に伝えるだけでなく、諷刺画に見られるように、当時の集団的な無意識まで浮かび上がらせる貴重な資料です。歴史資料としての図版資料は日本でも多数発行されてきましたが、それを代表するのが「風俗画報」です。Gale が提供する図版資料と「風俗画報」を比較することによって、一方の資料だけでは見えてこない部分が見えてくるかもしれません。

本稿では、ILN など欧米の図版資料と「風俗画報」を特定のテーマでご紹介します。「万博博覧会」をテーマとした1回目につき、2回目の今回は、「起源・始まり」と題して、19世紀から20世紀初頭に起源をもつモノや現象を取り上げます。

※Gale Primary Sources は新聞、雑誌、書籍、マニュスクリプトなどの歴史資料を収録する Gale の電子リソースの総称です。

## ◆動物園

猛獣の檻の中に人がいて、外の人々が近寄って叫んでいるような、ただならぬ光景を描いた挿絵です。エレン・ブライトという17歳の動物使いの女性が虎に襲われて死亡するという痛ましい出来事を描いたものです。ブライトは、叔父のジョージ・ウォンブウェルが経営していた移動動物園の動物使いとしてヴィクトリア女王の御前で興行をしたこともあります。動物園というと一般市民向けの常設の動物園をイメージしますが、常設動物園が生まれる前に移動動物園が広く親しまれていました。使われている言葉も、“zoo”ではなく“menagerie”です。



*“Frightful Occurrence in Wombwell’s Menagerie”  
Illustrated London News, January 19, 1850*

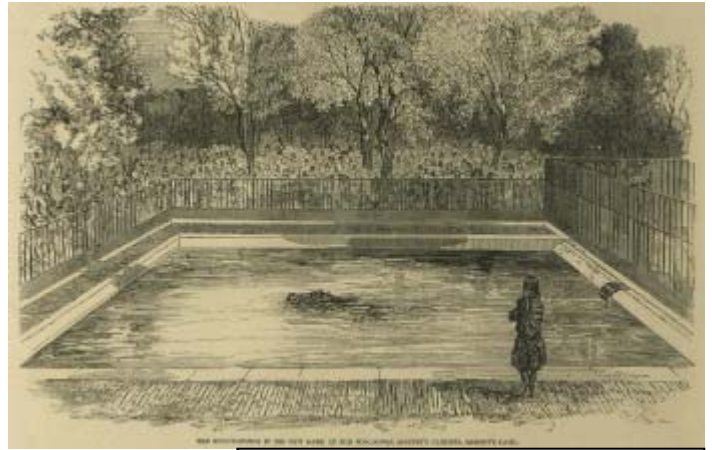
イギリスにおける最初の常設動物園は、ロンドン動物学会が設立しました。挿絵はリージェントパークに作られたロンドン動物学会附属動物園を描いたものです。

動物園とは思えないような壮麗な建築です。見物客もわずかで、庶民というよりは、紳士淑女です。屋上にも人影が見えますが、記事では庭園全体を見渡すことができるテラスになっていると説明されています。



*“Zoological Society’s Gardens. Regent’s Park – New House for Carnivora”  
Illustrated London News, April 23, 1843*

1850年、エジプト産のカバがロンドンにお目見えしました。ロンドン動物学協会附属動物園は、カバを見ようと、大勢の人々が訪れたといいます。この挿絵は、1年後にカバが新しい浴槽に入れられた時のものです。よく見ると、柵の向こう側の木の下に多くの見物客がいるのが分かります。

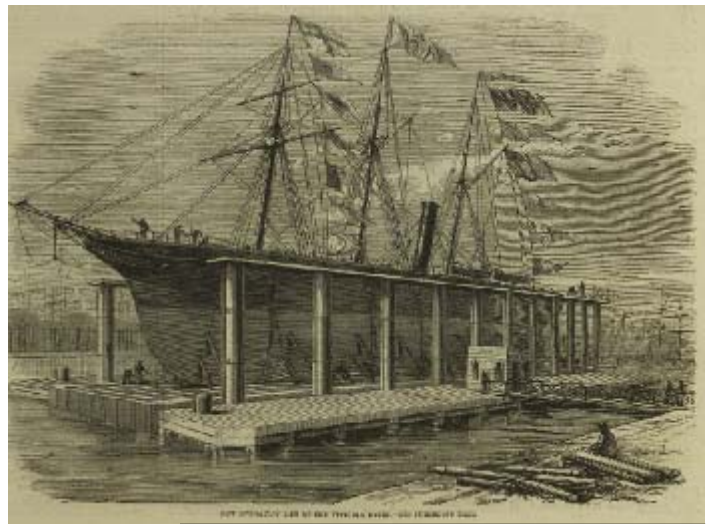


*"The Hippopotamus in His New Bath"*  
Illustrated London News, June 14, 1851

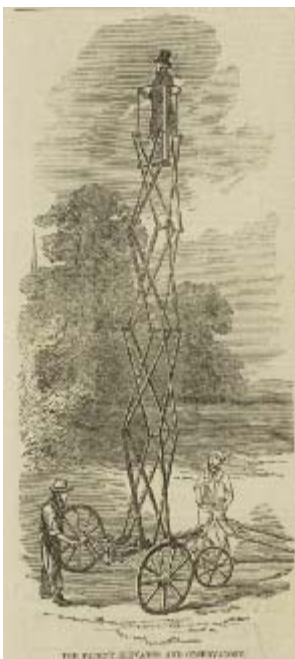
### ◆エレベーター

エレベーター(lift, elevator)というと、ホテルや百貨店のエレベーターをイメージします。しかし、ILNで"lift"を検索してヒットする最も古い記事は"hydraulic lift"、すなわち「油圧式リフト」です。

この挿絵はヴィクトリアドックに敷設された新しい油圧式エレベーターを紹介する記事に掲載されたもので、船をリフトに載せて、水面上に持ち上げる様子を描いています。記事によれば、600トンの船を35分で所定の位置まで持ち上げるとのことです。重量のあるモノを持ち上げるための業務用エレベーターが、エレベーターの起源です。



*"The Hydraulic Lift"*  
Illustrated London News, December 25, 1858



次の挿絵は、シルクハットを被った人が物見櫓に立っている様子がコミカルです。記事によれば、クリミア戦争の時に敵の陣地を遠方から探るうまい方法がないか、案を出し合っていたところ、ある人が、マジックハンドの原理を使えば人をかなりの高さまで運ぶことができると思いつき、試行錯誤の結果、実用に耐えるものを完成させ、政府に採用されることとなりました。油圧式と比べるとかなり原始的ですが、エレベーターには相違ありません。記事には、これを実践に応用しようとした時には戦争が終わっていたとのオチがついています。

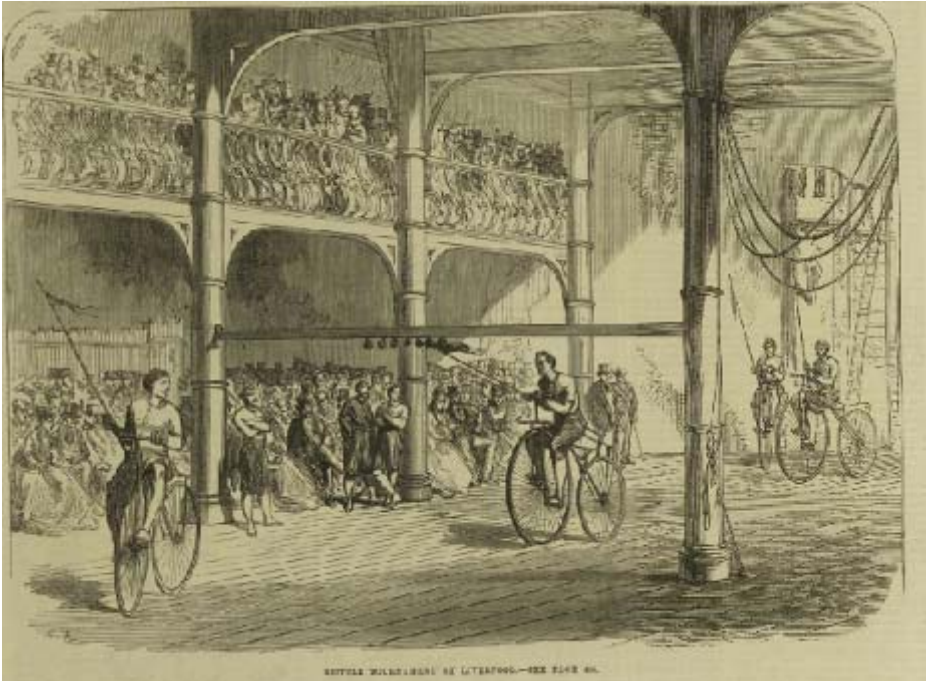
*"The Patent Elevator and Observatory"*  
Illustrated London News, October 11, 1856



## ◆自転車

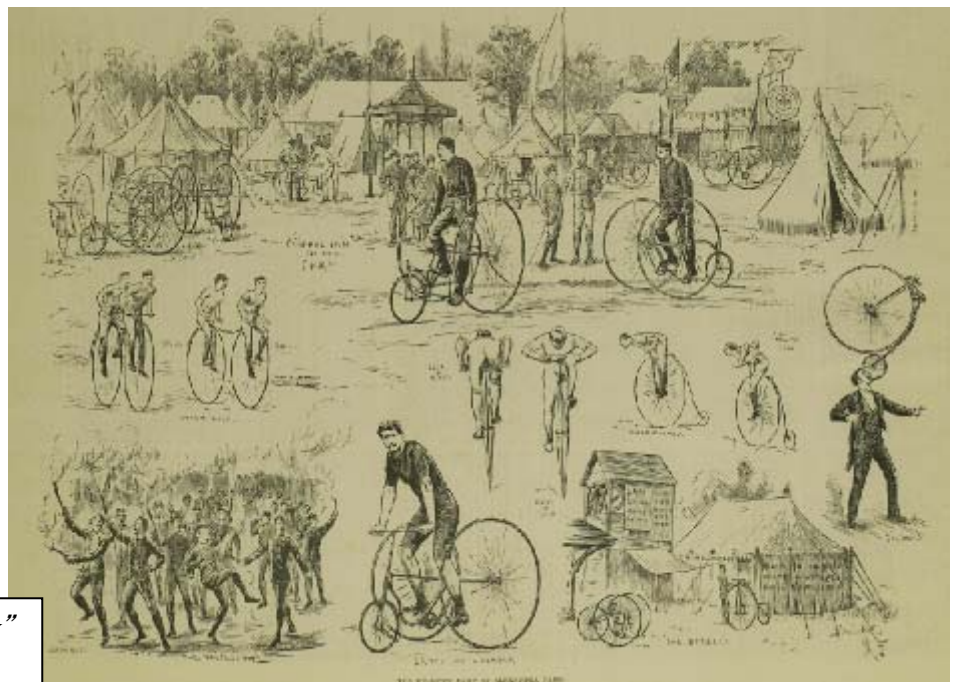
自転車も19世紀に欧米で生まれたモノです。ILNで”bicycle”を検索すると、自転車競技の記事がヒットし、自転車がスポーツであったことが分かります。また、それらの記事から、自転車には”bicycle”のほかに”velocipede”の呼称があったことも分かります。

下の挿絵は、リバプールで行われた自転車競技を描いたものです。自転車に乗った人が、手に持つ槍を使って、中央の水平の梁からぶら下がっている小さなモノ（指輪のようです）を取ることができるかを競っています。数ラウンドあり、最も多く取ることができた人が優勝したとのこと。これは、自転車を馬に見立て、中世の馬上槍試合を再現していると考えられます。



*“A Bicycle Tournament”*  
Illustrated London News, May 1, 1869

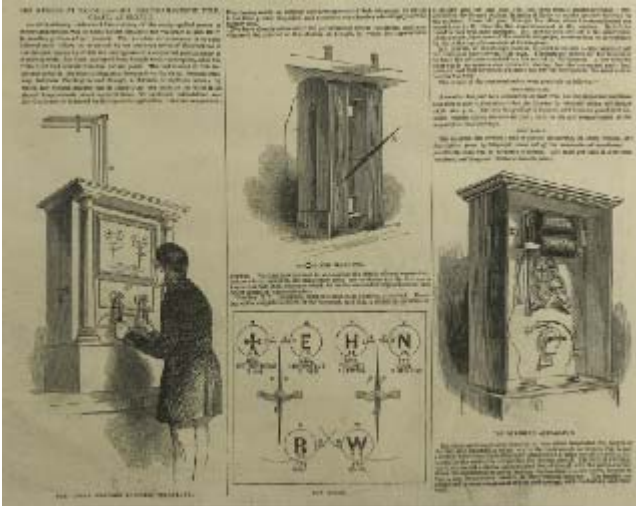
次の挿絵は、アレクサンドラ・パークでの自転車競技会の模様を描いたものです。二輪車だけでなく、一輪車、三輪車、二人乗りのタンデム自転車など、様々な自転車があります。自転車に乗る競技だけでなく、自転車を顔で持ち上げる競技まであったようです。



*“The Cyclists' Camp at Alexandra Park”*  
Illustrated London News, June 14, 1884

◆電信・電話

19世紀には距離を短縮する技術革新が実現しました。それを代表するのが電信と電話です。ILNは電信や電話を人々が受け止めた様子を伝えています。左下の挿絵は、殺人事件の逮捕に電信が一役買い、その効用を世に知らしめたことを描いています。右下の挿絵は、電話で新年の挨拶をする人々を描いたものです。



*“The Murder at Salt-Hill – The Electro-Magnetic Telegraph, at Slough”  
Illustrated London News, January 11, 1845*



*“New Year’s Greetings by Telephone”  
Illustrated London News, January 7, 1882*

◆ゴルフ、テニス

19世紀のイギリスでは、現在盛んに行われている多くのスポーツ競技が生まれました。右の挿絵は1870年のゴルフ競技会の様子です。全英オープンが始まったのが1860年ですから、その10年後です。記事を見ると、現在のように18ホールではなく、21ホールで競技していたようです。



*“Golf at Blackheath”  
Illustrated London News, March 26, 1870*

次ページ左の挿絵はその19年後の1889年のもので、女性のためのゴルフ競技会を描いたものです。初心者からベテランまで、腕前も様々な女性たちがゴルフを楽しんでいる様子が伝わってきます。

次ページ右の挿絵はテニスのウィンブルドン選手権を描いた1879年の記事です。記事によれば、ウィンブルドン選手権は1877年に始まり、この挿絵は3回目の選手権を描いたものです。一番上の競技をしている図は決勝戦のもので、しかし、肝心の競技よりも、観客の方が大きく取り上げられています。男性が女性に話しかけたり、紅茶を振舞ったりと、社交の場であったことが分かります。右側の傘をさした男性が3人の女性に話しかけている絵に、テニスの得点の数え方になぞらえて“3 to love”のキャプションが添えられているのは、テニスの記事ならではです。





*"Ladies' Golf at St. Andrews"*  
*Illustrated London News, October 12, 1889*



*"The Lawn Tennis Championship"*  
*Illustrated London News, July 26, 1879*

#### ◆アフタヌーンティー

イギリスと言えば紅茶です。イギリスに初めて茶が輸入されたのは17世紀。一部の王侯貴族の嗜好品だった茶は、時代が下るにつれ、庶民の生活にも不可欠のモノになってゆきます。19世紀には新しい喫茶の習慣が生まれました。午後に紅茶を飲む「アフタヌーンティー」の習慣です。挿絵は南米の熱帯地方における富裕なプランターの邸宅におけるアフタヌーンティーの時間を描いたものです。



*"Afternoon Tea"*  
*Illustrated London News, August 20, 1881*



## ◆鉄道(通勤列車と殺人事件)

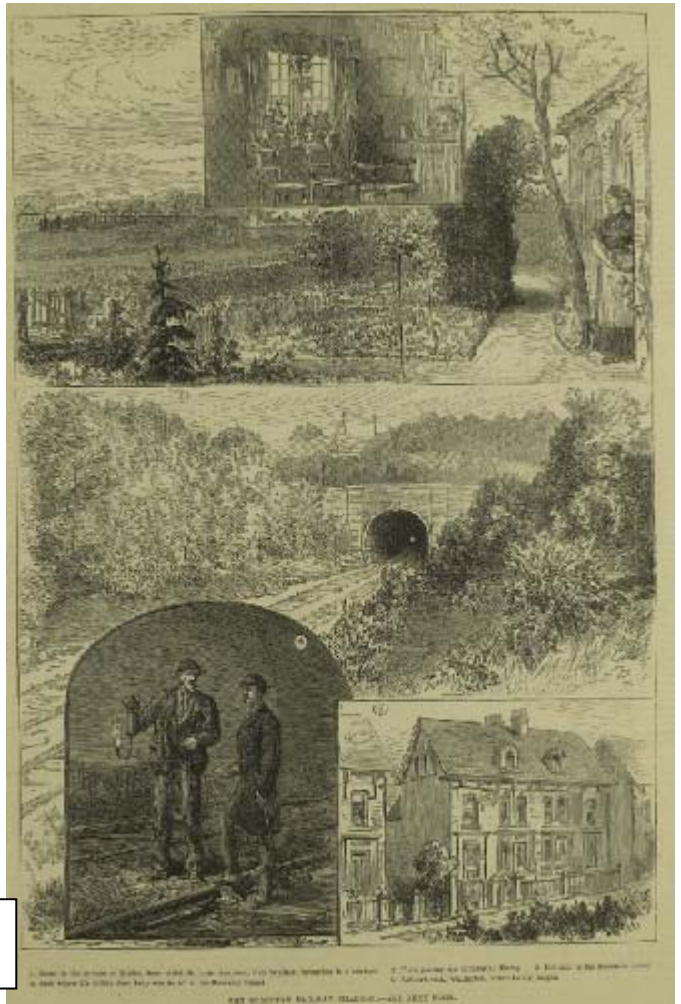
イギリスで鉄道の営業運転が始まったのが 1830 年。以来イギリス国内には鉄道網が張り巡らされました。そして、鉄道が毎日の通勤の手段に使われるようになります。左下の挿絵は、通勤用列車の営業運転が始まったときの早朝のヴィクトリア駅の様子を描いたものです。この通勤列車は職人、労働者専用で、平日に毎日、ターミナル駅間を 2 往復しました。乗客は週に 1 シリングのチケットを購入する必要があり、購入の際は、不正防止のため、氏名、住所、職業、雇用者名を提供しなければなりません。挿絵の前方にランプを手に掲げている駅員と思しき人の後ろ姿が見えますが、3 月の早朝 6 時頃、まだ夜明け前です。

鉄道は、交通手段としてだけでなく、社会風俗やゴシップの題材も提供しました。一つの例が殺人事件です。右下の挿絵は、ブライトン鉄道の一等客室で小麦商のゴールド氏が殺され、客室から放り投げられ、トンネルの近くで発見された事件を報じる記事です。

現代の推理小説において、鉄道は殺人事件の舞台としてしばしば取り上げられます。鉄道ミステリーなる呼称もあるほどです。ヴィクトリア朝時代の作家は、鉄道での殺人事件という新しい現象に、文学的想像力を掻き立てられたのかもしれない。



*“The Workmen’s Penny Train from Ludgate”  
Illustrated London News, April 22, 1865*



*“The Murder on the Brighton Railway”  
Illustrated London News, July 9, 1881*

掲載商品のすべてのコンテンツと機能をお試しいただける 1 ヶ月の無料トライアルを受け付けております。掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 学術情報商品部 電子商品課（電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:[online@kinokuniya.co.jp](mailto:online@kinokuniya.co.jp)）までお願い致します。お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaiyo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。